

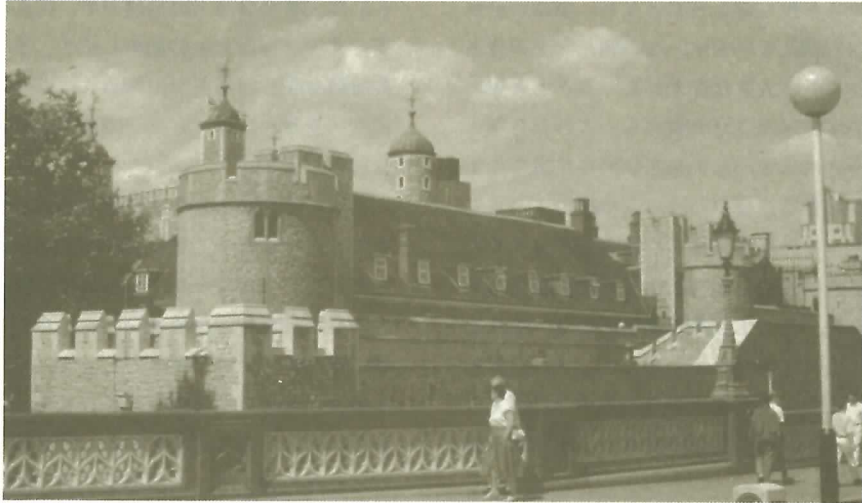
図書だより

〈第27号〉

平成4年10月26日

呉工業高等専門学校

図書委員会



タワーブリッジから見えるロンドン塔

目	次
〔表紙〕	1
〔巻頭文〕 土曜開館に思う	図書館長 今井 勲……2
〔読書感想文〕	
文学 「金閣寺」(三島由紀夫著)	M1 木村 英之……3
「受け月」(伊集院静著) (第105回直木賞受賞作品)	E1 植木 真澄……4
「プールサイド小景」(庄野潤三著)	
(第32回芥川賞受賞作品)	C1 平井 学……5
歴史 「いまを生きる」(クラインバウム, N. H. 著)	A1 西本寿美子……5
「キリング・フィールドからの生還」(ハイン・ニョル著)	C2 芝山 直路……6
「東京大空襲」(早乙女勝元著)	C2 岡本 忍……7
「額田王の暗号」(藤村由加著)	A2 岡田 慶……8
「法隆寺を支えた木」(西岡常一、小原二郎著)	A2 西永 恭子……9
政経 「日本の品格」(大河原良雄著)	M3 桃谷 浩……9
「自衛隊をどうするか」(前田哲男編)	M1 岡 有希……10
「北方領土ー軌跡と返還への助走」(木村汎著)	E3 四ノ宮大輔……11
「だれのための米自由化か」(田代洋一著)	E3 森田 健二……11
〔随想・読書雑感〕	
「温暖化への世界戦略」(地球産業文化研究所編訳)	C4 青木 美咲……12
「教育テレビスペシャルー	
都市と住まいの建築家の挑戦」をみて	A4 井口 康雄……13
〔新任教職員随想〕	
「南極観測船の将来は」	会計課長 嶋田 康夫……14
「無題」	用度係長 嶋市 敬……15
「選択」	用 度 係 出木舎雅文……16
「パプロフの条件反射」	図書係長 畑野 繁人……16
〔座談会〕	
「図書館の有効利用」	18
〔私の推薦する本〕	
日本河川水質年鑑編集委員会編「川の音ー女性による川のエッセイ集」	
山海堂	土木工学科非常勤講師 釜口 忠士……21
谷沢 明著	
「瀬戸内海の町並みー港町形成の研究」未来社	建築学科 岡本 二郎……21
〔新着図書30選〕	22
〔科学・数学パズル〕	25
〔お知らせ〕 文部省学術情報センターの案内	25
平成3年度図書館統計ほか	26
〔編集後記〕	図書館長補 池上 廉平……26

巻 頭 文

土曜開館に思う

図書館長 今井 勲

今年の4月から本校も週5日制となり、前期が終わり、早くも後期を迎えています。この間、学生の皆さんには生活のリズムに大きな変化があったことと思います。図書館でも昨年の11月末頃から、この5日制に向けてどのように対応すべきかを各学科の代表の先生方で構成される図書委員会でいろいろ検討してきました。やはり、そこでの話は土曜日に図書館をどうするかに絞られ、さらに討議した結果土曜日に開館する方向で纏まりました。そして図書館運営委員会、総務委員会で承認され土曜開館が決定しました。さらに開館時間帯については3主事関係、学科の先生方の意見等をもとに決定し、現在のような図書館の土曜開館が実現しました。

このことに向けてはいろいろと難しい問題がありましたが、特に厳しい予算のなかで現在のような開館を認めて頂いたことに大変感謝しております。これは学生の皆さんにとって図書館がいかに大切かを理解してくださったからだと思います。皆さんは、この厚意を無にしてはなりません。また、その責任者である私は図書館利用の大切さにまだよく気付いていない人に対して、一人でも多く理解してもらうよう呼びかけなければならないと考えております。

皆さんも御承知のように、学業において優秀な成績をおさめただけでは、社会に出て有能な技術者にはなりません。そのために高専教育でもクラスの活動やクラブ活動等が取り入れられています。仲間と語り合ったり、協力したり、競い合ったりして、より人間的に大きく豊かに成長できることを目指しています。

しかし、私はこれだけでは不十分だと思います。相反するようですが、一人になって自分だけの時間を持つこと、孤独を愛することを取り入れるべきだと考えます。皆さんの年齢くらいになりますとだんだんこのことが重要になってきます。

価値観の同じような仲間といつも一緒にいますと安心ですが、つい他人の考えに流されてしまいます。このようなことが続きますと、自分を見つめ自分を育てることはできません。いろいろなことを自分で考え

るには大勢のなかでは無理です。ほんの少しの時間でも一人になることをお勧めします。そして一人で自分の時間を楽しむことが出来る人になってほしいと思います。そうすれば、きっと深みのある人になっていくことでしょう。

私は、このようなことが出来る最適な場所は図書館であると思います。誰にも邪魔されずに自分の好きなことが、いくらでも考えられますし調べることも出来るのです。自分に自信がなくなった人は本を読み、真剣に考えることが出来るでしょう。悩みがある時もまた読書すれば、その解決の糸口も見つかるでしょう。また、淋しい時も読書することで気持ちが満たされることもあるのです。本に熱中しその物語の中に没入できれば、主人公と共に未知の世界を体験出来るのです。このようなことが出来るのも、図書館には学生の皆さんにとって多くの良い本がそろっているからです。

自分は読書嫌いだと思っている人も、ぜひ図書館に足を運んでみて下さい。本の題名を眺めているうちに、きっと頁をめくってみようという気になると思います。全部読まなくても気に入った所だけ読んでも結構楽しい読書になります。

学生の読書離れが心配されていますが、優秀な技術者を目指している皆さんには、テレビや映画とはまた違った「読書」の楽しみを体得してほしいと思います。そのためには是非図書館を利用して下さい。

また、孤独を愛するにはゆったりとした静かな気分 のときでなければなりません。私は土曜日が最良だと考えます。静かに休日のひとときを図書館で過ごすのは優雅であり、大変贅沢な気分を味わうことが出来るのではないのでしょうか。この土曜日のゆとりの時間を図書館で思索の時間、読書の時間として楽しんでほしいと思います。そして余暇を自分らしく豊かに過ごしてほしいと思います。



読書感想文

文学

「金閣寺」

(三島 由紀夫 著)

M1 木村 英之

「美ということだけを思いつめると、人間はこの世で最も暗黒な思想にしろずしろぶつかるのである。」

作中のこの言葉が本当なら、彼（作中での私。溝口という名前がある）は、この最も暗黒な思想にぶつかり、そのうえ言語障害者であるということによって、自ら暗黒の思想に捕らわれていったのではないだろうか。

コンプレックスというものは、人の行動を大いに左右するものであると思う。そしてそれは、重大な事を決める時には必ず、思考の中に知らず知らず現れるものでないだろうか。彼は言語障害者であるということによって生まれたコンプレックスを、ずっと心の内に飼っていた。それは年を経るごとに彼の中で成長していったのだと思う。自分のたったひとつの存在意義になってしまうほどに。

彼はまた言語障害を、「私の内界と外界との間の扉」の錆びついてしまった鍵だと表現している。自分の内にある言葉を、スムーズに言葉にすることができない。つまり外界に達するのが遅いということであるが、それが彼にコンプレックスを抱かせる大元の原因だったのではないだろうか。そして、自分が手に入れることのできない新鮮な、明るい外界の現実の代わりに、彼は自分の内界の現実しか受け入れようとしなかったのではないかと思う。心の中の「夢想の金閣」もまた、彼の作り出した、内界の現実だったのではないか。

「私という存在は、美から疎外されたものなのだ。」彼はそう考えていた。自分は醜いとさえ思っていた。だからよけいに彼は美しいものに執着したのではないだろうか。そして彼の美しいものを見る時の基準となるものが金閣だったのだろう。なぜなら、「私が人生で最初にぶつかった難問は、美ということだったと言っ

ても過言ではない」ので。そしておそらく、彼が人生で最初にぶつかった美とは、父が幼いころ語った金閣の美だったのではないだろうか。

こう考えてみると、彼が抱いていたコンプレックスは、外界と美という二つの、彼を疎外したものに対してであったと考えられないだろうか。言語障害者であるということから外界にそして醜いと思うことによって美に。

彼は自分を疎外した外界を、世の中を憎んでいた。それ故彼は、世界は滅びなければならないと思っていたのだろう。世界さえ変われば、自分は言語障害者だといってからかわれることもなくなるし、あれほど欲しくても手に入れることはできないだろうと思っていた、「もっと軽く、明るく、よく目に見え、燦然と」した「目に見える」誇りを手に入れることができるかも知れないとも思ったのであろうか。彼の唯一の誇りは、「人に理解されないこと」だったという。これも暗黒の思想から生まれ出たコンプレックスの裏返しなのだろうか。

彼の心の暗黒は鶴川という「錬金術師」によって、かろうじて表面化しないで済んでいた時もあった。確かに彼の暗黒の思想から生まれ出た悪は、鶴川が死んでから、彼に行動を起こさせたように思われる。彼の心の暗黒を明るい感情に翻訳し、外界と彼とを結びつけていた鶴川の死。この死さえなければ、彼の人生も違ったものになっていたのかも知れない。「私を人生から隔てようとする」のが彼の言うように金閣なのだとしたら、彼から鶴川を奪ったのも金閣なのだとでも、言うのだろうか。

とにかく彼はひとつの自覚を持っていた。「暗い世界に大手をひろげて待っていること。やがては、5月の花も、制服も、意地悪な級友たちも、私のひろげている手の中へ入ってくること。」この「暗い世界」、「手の中」とは、死んだもの、滅びたものが行きつく世界つまり彼が司る世界のこと、彼の内界ではないだろうか。彼が自分の内界の現実しか受け入れないとすると、彼の感じた、実物と幻の金閣との相違が何となくわかってくる。彼は今にも滅びそうなもの、つまり自分の手の中に確実に入ってきそうなものが好きなのである。

それ故彼は、長い時間「不変不壊」のまま存在し続けた金閣を憎み、「金閣を焼かねばならぬ」と思い立ったのだろう。あるいは金閣を変えることによって世の中をも変えようとしたのであろうか。

ところが彼は、認識によって世界は変わるということ、行為は必要ないということに気づく。しかし「仏に逢うては仏を殺し、祖に逢うては祖を殺し、父母に逢うては父母を殺し、親眷に逢うては親眷を殺して、始めて解脱を得ん」という言葉によって結局火をつけてしまう。彼は解脱を得たかったのだろうか。少なくとも「生きよう」と思った彼のこの後の人生が、大きく変化したことは間違いないだろうと思う。

「受け月」(第105回直木賞受賞作品)

(伊集院 静 著)

E1 植木 真澄

この「受け月」は、伊集院静さんの作品で最近、直木賞を受賞した作品です。この「受け月」は、第7話から成っています。そしてそれは、全て野球が関係してくる話でした。そして私が、その中で最も心に残ったのが、第1話の「夕空晴れて」で次に良かったのが第5話の「ナイス・キャッチ」でした。

「夕空晴れて」は、子供が生まれて、間もなく父を亡くした母子家庭が、子供の野球を通して、再び二人で生きていこうと決意を新たにするようなのが、大体的内容でした。この始まり方が、かわった始まり方で、読者の気を引く一文でした。私も早く次を読みたいという気になりました。そして、父の悟が生きていた過去と、母子家庭になった現在とが交互に書かれていました。私が登場人物の中で一番好きなのは、野球好きの息子茂です。野球の試合に1回も出されず、ただみんなのお茶つきやグラウンド整備をするだけなのに毎日野球の練習に飛んで行き、試合が勝つとまるで自分が出たようにうれしそうなのに私は、なんでまだたった小学2年生の茂が、そんなに強いのか分かりませんでした。私だったら、すぐに挫折しているような気がしました。けれど読んでいる内に理由が分かったような気がします。多分それは誰にも負けない位、野球が好きなんだと思います。それだったら私にも分かります。自分が、本当に興味ある事、好きな事は、どんなに苦しくてもやり抜いていけるものだと思います。

しかし母の由美は、その光景を見て怒りました。茂が、選手で活躍してるとばかり思っていたからです。その怒りは、コーチである冷泉に向きました。私は、この気持ちが分かるような気がします。最初は、身勝手な母親だな、自分の息子だけが良かったらいいのかと思ったけど、自分がこの母親の身になって考えてみるとよく分かります。すごく、くやしいし、見てる方がつらいという事もあります。そしてこの母親は、実は茂も野球をやめたがっているのではないかと考えるようになります。そして、それはやがて、のびのびと野球ができる実家に帰ろうかという気になっていきます。しかし、その母親も冷泉に会って再び気持ちを入れかえます。それは、冷泉の家に茂の事について文句を言いに行った時、冷泉の話から、冷泉の先輩である父の悟の話が出ます。その悟が冷泉に言った言葉「自分のためだけに野球をするなよ」というのが、ずっと私の頭に残っています。この言葉は、野球に限らず、いろんな事に应用されると思います。私自身、自分さえ良ければたくさんあります。この言葉を見た時、自分のそうゆう所が恥ずかしくなりました。いつでもこの言葉を心に残しておこうと思います。また私は、この始まり方も好きだけど終わり方も好きです。この本の7話、共通していえるのは、野球の他にこの終わり方です。最後まで書かない。余いんを残して終わる。この1話の終わり方も感動的でしかも最後まで書かれてないので、自分でいろいろこの二人について想像することができます。私は、ハッピーエンドが好きなので、自分勝手に茂は、きっと努力が実って野球のレギュラーになれるだろう、そしてこの母と子は二人でうまくやっていけるだろうと考えました。

私は、この夏休み中、たくさん読書をしました。その中で夏目漱石の「こころ」や三浦綾子の「塩狩峠」が特に感動しました。中でも「塩狩峠」は読んで何回も涙が出るくらい感動しました。この「受け月」もその感動した作品の一つです。私は、このように何回読んでも飽きず、その度に感動できる本をたくさん読もうと思う。読んだその瞬間から、主人公になれる本が、私はとても好きになった夏休みでした。

「プールサイド小景」

(第32回芥川賞受賞作品)

(庄野 潤三 著)

C1 平井 学

ぼくが読んだのは少し大人っぽい話でした。

芥川賞の作品で、文が短かったです。内容は、ある真夏の日、通勤電車から学校のプールが見えそこには女子水泳選手が練習している。毎日夕方になるとある男が二人の子を連れ、プールの端っこで泳ぎを教えている。女子水泳選手のコーチとその男は仲がよかった。そして家に帰ると夕食と一緒にその男の妻が待っている。しかしある日その妻の夫は会社をクビになってしまった。原因は多額な会社の金を使ってしまったからである。妻はその金を何に使ったか聞くと、夫はバーの話をしだした。そのバーには二人の姉妹がいると言う。妻は意外なことを話され驚いている、××といった話だ。その男は40近くなので、そんな年で再び就職することは難しいと書いていたが、僕も実感する。自分もこの夏バイトを探すのに苦労したからだ。気持ちが分かる。しかもその男は妻と小学校5年と6年の二人の息子がいる。就職が決まったのかどうかを書いていないのが気になった。

その夫はバーの姉妹の姉の方に、有名なアメリカの水泳選手の試合のチケットなど、高価なものをプレゼントをしたのでクビになったのだと思う。実際にはそのせいで金を使ったとは書いていなかったが僕はそう思う。

女子水泳の選手のコーチは、その男を見て、夕食前に子供たちに水泳を教えて理想の夫だと、思っていた。僕もそこまで読んだときは、いいお父様って感じだったけど、会社をクビになったと、読んだときは僕もビックリした。しかし僕より妻の方がビックリしたのだ。

その妻もいい性格で明るく、よく子供達と遊んでいたらしい。そして、クビになった理由を聞いた時、深く追求はしなかった。いい奥さんだと思った。

クビになってずっと家に居たので、子供達に疑われないよう会社の休暇だと言っただけけれど、近所の人達にも疑われそうだ。この時も苦しくてつらいのだなあと思った。

クビになってからその妻の夫は、家でゴロゴロしていたが、子供がどこかへつれて行ってといいだした。

その時、奥さんが「この人は疲れているからだめ」と言った。ここでも奥さんのやさしい性格が現れている。僕も結婚するならこんな奥さんがいいと思った。

そしてとうとうある日の夕方、またその夫は二人の子供を連れプールに行った。そのとき奥さんが気を利かせて、チョコレートを持って行かせた。そのチョコレートの水泳選手にあげろと言うのだ。またまた奥さんのよい性格が現れていると思った。

そして女子水泳選手たちは大会があるので午後から早く切り上げていた。そして静かなプールの水面を電車の窓から見た光景で終わる。ぼくはこの最後の描写が好きになった。最後に、おもしろかった。

「いまを生きる」

(クラインハウバウム,N.H. 著)

A1 西本 寿美子

この本を全体を通してみると、“青春とは何であるのか”と考えさせられます。現に今、私は青春真っ直中といったところですが、本当の青春というものを分かっていないように思いました。毎日毎日、同じことを繰り返して、目標も定まらず、無駄に時間を過ごしてしまっているように思います。本当に青春を楽しんでいるという人は、必死になれる事を何か一つはもっているはずです。それは何でもいいのです。クラブや勉強・恋でもいいのです。どんなに苦しいことでも、その人にとっての、生きがいみたいなものをみつけられた時に、初めて青春が始まるのだと思います。たとえば、その人が百歳になった老人だとしても、青春を楽しむことはできるのです。

現に、この本に出てくる教師、キーティングは、30代なかばですが、教師としての熱意がとても感じられ、この人も題名のごとく、いまを生きているといった感じがしました。やはり、そういった人は、生徒への影響も大きく、詩を通して事務的だった生徒たちを変えていきます。また、“死せる詩人の会”が再結成されたのも、彼の影響です。特に印象に残ったのは、彼が生徒たちに、教科書を破らせた場面です。彼は、きっと、教科書に書いてある評価方法に頼らず、個人一人ひとりが考えてもって詩を感じ取ってほしかったのでしょう。そして更に、詩だけでなく、彼らの人生も、自分の考えをはっきりさせることのできるものにしてほし

かったのだと思います。

キーティングの生徒の一人であるニールは、とても芝居をやりがっていました。しかし彼の父、ミスター・ペリーは、彼を頭ごなしに怒鳴りつけるだけで、彼の意見を聞こうとしませんでした。キーティングや仲間たちに会おう前の彼は、何も反抗できず、一人で悩んでいました。やはり、人間というのは、勇気づけてくれる人や、なぐさめてくれる人がいないと弱いものです。しかし、彼は、“死せる詩人の会”の仲間や、勇気をくれるキーティングという教師にめぐり会いました。それによって、彼は父に黙って芝居を始めることを決心しました。このことは、すぐ彼の父へ伝わってしまい、ニールは家へ連れ戻されてしまいます。そして、彼は、親に対する反抗する心を“自殺”という形でしか表現できなくなってしまいました。私は、その部分を読んで、とてもショックでした。親に、彼をそこまで追いつめる権利があるのでしょうか。

彼は、結局自殺をしてしまいましたが、本当に自分のやりたいことを、一度だけですがやりきることができたのです。そういう人生を送れる人が、一体、世界中に何人いるのでしょうか。はっきりいって、とても難しいことですが、そういう人生を送りたいと願っている人は、ほとんどだと思います。もちろん、私もその中の一人です。だから、それを実行するため、自分の生きがいというものを早く見つけ出したいと思っています。

○「図書室では静粛に」

○「読んだ本はもとの位置へ」

○「帯出期間を守ろう」

○「図書室での飲食はやめよう」



歴史

「キリング・フィールド からの生還」

(ハイン・ニョル 著)

C2 芝山 直路

私こそカンボジア大虐殺の生き証人である。一著者であるハイン・ニョルが、この本のはしがきでこう書いてある通り、この本は、映画『キリング・フィールド』でアカデミー助演男優賞などを受賞した著者のカンボジア内戦下での体験をつづった手記である。

僕は、この本を読んでとてもショックを感じた。その昔、カンボジアにおいて波尔・ポト派による大虐殺があったという話は知っていたが、これまでの知識や想像をはるかに超えるこの本の内容に改めて衝撃を受けた。1975年から4年ほど続いた波尔・ポト政権時代に「社会的実験」の名のもとに100万人以上のカンボジア人が命を落としたという事実があった。まさに「殺戮の場(キリング・フィールド)」とカンボジアは化したのである。その中を生き延びた著者は、その中において行われた非人間的な行為を今ここに告発しているのである。

「幸いにも波尔・ポト時代の拷問、飢餓、強制労働、病気を生き延びた人間として、沈黙することも、目をそむけることもしてはならない」と彼は別の本にこう語っている。何が彼をここまで決意させるのだろうか。肉親が殺されたことだろうか。最愛の妻が悲惨な状況で亡くなったことだろうか。それとも自分の人生が大きく狂わされたからだろうか。彼はかつてカンボジアでは医者だった。もし何事もなければ、家庭にも恵まれ平和で静かに暮らすことができたかもしれない。もともとカンボジアはほとんどの国民が農業によって生活を営んでいる。このような穏やかな国になぜ内戦が20年近くも続いたのか。なぜ大虐殺が起きたのだろうか……。歴史にクエスチョンはつきものだが、もしカンボジアに悲惨なことが起こらなかったら、彼の生涯は全く違ったものだったと思う。

彼は、その後、波尔・ポト政権による虐殺の危険から逃れるためタイへ脱出し難民としてアメリカに渡り、映画のキャストとしてスカウトされ、アカデミー賞を

受けるまでになったのである。彼は自ら「有為転変の人生を送ってきた」と言った。そして彼は今、カンボジア難民のために働いている。——いつの日かカンボジアが自由の国になったら、あの（妻の墓のある）ところに戻ろう。そして命を失ったすべての人のために祈ろう。そうして初めてみんなの魂が安らぎ、私の心も安らぐだろう。——彼は本の最後でこう閉じた。カンボジアは去年、和平が達成され、国連による史上最大規模の立て直しが始まっている。彼があのとこに戻れたかどうかは知らないが、本当の和平がカンボジアに訪れるように祈る気持ちは変わっていないだろう。日本も本当にこれらの人達が心から喜んでくれるような支援、援助ができればいいのにとニュースを見るたびに思う。

先日、ある新聞にこのような記事があった。『キリング・フィールド』は、ジョン・レノンの「イマジン」が流れるなか、こう締めくくられる。

「カンボジアの苦悩は終わっていない」今もその状況は変わっていない。——

「東京大空襲」

（早乙女 勝元 著）

C2 岡本 忍

わずか2時間22分の空襲で、8万8千人。文中にこの言葉は、何でも繰り返し出てくる。僕自身、この東京大空襲についての知識がまさに取るに足らないものであったことに気付いた。広島に生まれてきたがゆえの盲点だったのかどうか、戦争というイメージイコール原爆という概念が強すぎて他の惨劇に余り目が向いていなかったのは、事実である。この作品の大半は大空襲により命からがら生きのびた被害者達の当時の状況を生々しく描いたものである。その各エピソードは、あまりにも暗くおぞましい。出産直後や家族との久しぶりの再会その直後にこの惨劇が襲ってくるのである。戦争時代の幸福とは、まさに風前の灯であり一時の和らぎも与えてはくれないことを物語る。しかも、広島原爆投下と同様に、空襲警報がとけて間もなくであるから無防備である。こう見てみると、広島原爆と大変似かよった所がありその共通点が必要以上の大量虐殺を産むのである。

この作品をつくるに至って著者はこう言っている。

「取材をしてもらおうとも遺族の門戸は意外に固かった。」と。普通その悲惨さを伝えようとして協力し合う。広島原爆の犠牲者の方達はどちらかというと世に伝えようとなさり、積極的であられるのに。僕自身もそれには驚いた。確かに被害者総数が違うので被爆者の方々が皆そうとは言えないがそれにしても少しおかしい。やはりその根底に流れているのは2時間22分という恐怖の時間幅である。その短くも長い時間帯は、もはや二度と取り戻すことの出来ない幸福をじわりじわりと奪ったのである。広島原爆にしろ東京の大空襲にしろいまだにその傷跡は消えていない。いないどころかまだ犠牲者の方々の間ではなお続き2時間22分の時間幅では満足出来ないようである。

以前テレビでこのような意見を聞いた。

「僕達が戦争の惨劇を知らないのは、教科書にくわしくのっていないからだ。もっと教科書にくわしく戦争のことについて載せて欲しい。」と。確かに僕もこの意見に賛成である。

しかし教科書は教科書である。僕達は待っている側ではいけないのだ。分かなければ調べ知れば聞かなくてはならない。実行にうつさない限り何も得ることは出来ない。この作品の取材は全て著者が一人で行った。確かにそのことは被害者の方々の古傷をえぐる行為かもしれない。この惨劇を二度と繰り返さないと豪語するならば、心を閉ざしては何も始まらない。過去も知らず、現在においての兵器の知識にもうとく、それでも、のほほんとして生きていける自分の位置が平和すぎることを感じずにはいられなかった。



「額田王の暗号」

(藤村 由加 著)

A2 岡田 慶

この本の著者「藤村由加」とは、4人の女性の名前から1字ずつとって作ったペンネームで実際には、その4人の女性によって書かれているのです。平均年齢28歳という若さながら4人共が韓国語・中国語をはじめ九ヶ国語に通曉していて、そんな彼女達が万葉集第一の女流歌人と伝えられる「額田王」が残す長歌三首、短歌九首の今まで誰も気がつかなかった、わからなかった暗号を、その歌に込められている真意を、原文を韓国語・中国語で読み解くことによって見事なまでに解明しています。

まずこの本を読む前に額田王についてより知っておく必要があると思い、瀬戸内寂聴著の『美女伝』収録の「額田王」を読みました。それによると彼女は、鏡王の娘として生まれ大海人皇子の寵を受けて十市皇女を生み、その後は大海人の兄、中大兄皇子の後宮につかえています。二人の男から男へと譲渡されたことや、日本書記の天武天皇の条にも天智天皇の条にも正式の後妃、すなわち皇后、妃、夫人の中にその名が記されていないことを見るとあまり高い身分ではなかったことがわかります。けれどふたりの秀れた男性から同時に寵をうけたというからには、彼女が並々ならぬ美貌と才智を兼ね備えた魅力のある女性であったことも想像できます。

額田王ときいて誰もが思い起こすのが、彼女が詠んだ「あかねさす紫野行き標野行き」の歌と大海人皇子の「紫草のにはえる妹を憎くあらば」という相聞歌でしょう。この歌は、推古天皇の代上り恒例となっている菟蓐の行事が蒲生野(現在の滋賀県蒲生郡の野)で催されていたとき、天皇の御料地で人目もはばからず大胆にも額田王に袖を振る大海人皇子、そんな二人が互いに詠みあった歌です。誰もがほのぼのとした情景を想うだろうし、これまでこの歌はおよそこのような感じで解釈されてきました。けれど「藤村由加」達はこの歌を原文に戻って考えることによって額田王の歌の中に、同じ場所なのにまるで違う場所のように表記されている“武良前野”“標野”は、それぞれ大海人皇子と天智天皇をあらわしていたことがわかりました。

そしてさらに歌の中に「不揃いに並ぶ」というひとつのパラドックスを見つけました。原文の所々にみられる対句表現もその見事なパラドックスによって論理的にすっきりと構成されていたのです。自分と相並ぶ天智天皇との関係、不揃いにしか並ぶことのできない大海人皇子との関係が、額田王の立場や心情を幾度にも重ねて詠みこまれていたのです。

そのほかには、天智天皇が中大兄皇子であった頃詠んだ三山歌も扱ってありました。これまでの、一人の女性をめぐり争う自らの姿を歌ったという解釈に加えて、皇位を賭けて争う自分と弟の大海人を二重写しにしていたこと、さらに隣国朝鮮半島の三韓抗争までもが詠みこまれていたのです。

私が「藤村由加」の非凡さを思い知ったのは、額田王の初期の作品で万葉きっての難解な歌といえる九番は初めての12字が千余年もたった今も訓み解かれてなく、後半部も様々な人によって様々な訓み下しがされて、その数は30余種にも及んでいるそうです。そんな歌を彼女ら4人は、「額田王が斉明天皇再祚時に詠んだ歌」と解明し、ついには千年もの間謎であった訓み下しにも成功したのです。これには古代史を研究している人達も驚嘆したことと思います。

今まで私の中で額田王は、天武・天智両天皇に寵愛された人として、はかなくて受け身の弱々しい女性というイメージがありました。けれど今、彼女の数々の歌の真意を見たことによって彼女の想いは終生ただ一人の男性にしか向けられていなかったことがわかったし、中国の教養をも兼ね備えた知性、それをふまえて詠まれることばのテクニックの数々、天智の後宮にしながら、大海人皇子への思いを公然と歌うしたたかさ、そのような彼女を知ってしまった今、二人の男性に愛されたという事実以上に、これらのことから彼女が後世の人々に「美女」といわれるのも納得できます。



「法隆寺を支えた木」

(西岡 常一、小原 二郎 著)

A2 西永 恭子

昔の建築物のほとんどが木造建築であるように私たち日本人は「木」という素材を昔から当たり前のように使っていました。日本人ぐらい木の好きな民族はいないそうです。

法隆寺は木造建築の「宝庫」だと言われています。それは単に日本最古の木造建築ということではありません。1300年もの長い間には風雨や地震や天災だけでなく人災も多くあったことでしょう。そして傷んだ所を修理してきました。それらの修理した跡などからその各々の時代の修理方法を見ることができます。今日の建築と異なる点が多くあったはずですが、そうやって多くのことを学ぶことができます。その多くを法隆寺は持ち、今日の人々やこれからの人々に大きな影響を与えることでしょう。法隆寺が「宝庫」と呼ばれるのが分かるような気がします。

人間に第二の人生があるように木にも第二の人生があると書かれてありました。木はずっと土の中で育っていくものです。そして木材として切られ建物の中に使われます。それからが木のいわゆる「第二の人生」だということです。ある木は柱として、ある木は化粧材としてあらゆる役割を分担されます。そしてそれまで生きてきたのと同じくらい長く第二の人生を歩んでいくのです。しかし木の特徴やくせを知った者がその木に合った使い方をしなないと木は第二の人生を短くして終わらせることになってしまうということです。木独特のくせがこの本にはたくさん書いてありました。その中で印象に残ったものは、古代建築の南側の正面玄関に用いる木材です。木のくせをよく知った人はそれを柱目の通ったきれいな北西側の木で飾ることはしないそうです。節くれだって肌ざわりが悪くても南側には南東側の木を用いるのです。木を知り木を生かして自然に逆らわないことが大切だということでした。

木だけではなく人間にも同じことが言えるような気がします。第二の人生だけではなく人生の道をまがってしまおうと、つまらないものになってしまう。しかし人間はその道を選ぶことができます。その道が合っているかどうか分からないけれども、楽しいものにす

るかどうかは自分次第です。しかし木はそれを選ぶことができません。だから木を扱う人たちがちゃんと選んであげなければならないのだな、と思いました。木を知ること大切ですが、知るだけでなく木を大切に扱って第二の人生をより長く生きさせてあげてほしいと思います。

政経

「日本の品格」

(大河原 良雄 著)

M3 桃谷 浩

僕は、この本の「日本が尊敬される道」という項が、一番強く印象的だったのでそこをとりあげて書きたいと思う。

その中で「日本の技術やお金は、現在、世界の注目を集めている。しかし、単に技術やお金だけでなく、「日本」の発言、行動もまた、世界のきびしい目に曝されているのだ。日本に「」を付けたのは、世界に見つめられているのが単に政府・外交といった「国家」としての日本だけでないからだ。「企業」の行動もまた、日本の行動と見なされる。さらに、私たち日本人一人ひとり、つまり「個人」の言動も日本を背負っていると言わなくてはならない。

もはや、日本の国際化というのは、国家間の問題にとどまらず、日本人一人ひとりの一挙手一投足が即、日本という国家の評価につながるような局面に、今日われわれは立っている、そういう認識が必要だろう。対日感情、対日観というものは、一人の日本人の言動によって左右される要素も少なくない。ましてや日本から年間に1千万人もの人が海外旅行に出かける時代にあって国際化の流れは、政治・経済だけでなく個人のレベルに及んできている。

それだからこそ、「国家」「企業」「個人」…すべてのレベルで、「日本」の発言と言動をもう一度ふり返って、吟味すべき時代となっていると思う。

「日本」はあらゆるレベルで品格をもち、その姿勢に沿った発言・行動をとり続けていくべきだろう。

それが、GNP世界第二位、ODA世界一でありながら尊敬されない国である日本から脱却できる、唯一

の、そして最も近い道だと私は声を大にして言いたい、と書いてある。しかし、日本が尊敬されない理由は、自分が思うに、金だけだして、後はなんでもやってくれというような心構えに問題があるのではないと思う。

以前ラジオでこんな話を聞いたことがある。

海外に進出しているある企業がお金などをたくさん寄付しても喜んでもらえず、地域の人となかよくあまりできなかったものが、その地域で火災が発生したとき、大変協力して、あまり被害が出なくてすんだ。たったこれだけのことでその企業は、地域の人とうまくやっていけたようだ。

たったそれだけのことである。要は、心だと思う。

だから結論として、これからは、お金をどんどん出すことではなくて、人間らしいやさしさを世界にアピールすることが、日本の汚名をはらすうえで一番大事なことだと思う。

「自衛隊をどうするか」

(前田 哲男 編)

M3 岡 有希

いま現在、高度経済成長をとげた日本が新たな問題（PKO法案）について大きくクローズアップされている中、私は、このPKOの問題と大きな関係にある自衛隊の問題、特に日本の対応の仕方について読みました。

この自衛隊は、40年つねに新たな問題として、我々の前にありました。

まず国民的合意を欠いた創設、憲法との違和感、アメリカのアジア・太平洋介入戦略と密接に連動しつつ肥大化してきた過程、アジア諸国民からかつての日本侵略軍と二重写しとしての眼差しなどである。このような歴史を踏んでいる自衛隊は、世界第3位の「軍事費大国」となった今、法と現実の不一致も極限に達したといえる。今日、自衛隊は存続の意味を問われ、岐路に立っている。

第一に自衛隊を育てる名分とされた冷戦が終わって、情勢変化が表層的なものでなく、根底的な動因をもって、世界の流れが変わった。

第二に人の要因で、徴兵制導入など提起できる状況にないため、「災害派遣」は本来の任務ではないため、

板ばさみの状態である。

けれども一方で、PKO法案に代表される自衛隊に新たな任務を与え、海外へ送り出そうとする、いわば自衛隊の「外への進出」の動きが目立ちつつある。この試みは湾岸戦争を基に起こった「国際貢献」のキャンペーンから生み出された。

これらは将来、日米安保条約の「国際的安全保障」の実動部隊に自衛隊を使いたいというのが狙いである。もしこのようなことが実現すれば、憲法第九条に反し、法の支配ということが、この国には存在しないことに等しい。しかし、憲法第九条を押す立てるのではなく積極的に冷戦後の日本の安全保障の条件を考えて、自衛隊を変えていくというのに、私も賛成です。

それで、日本はいかなる貢献ができるか考えると、第一として、国際社会のコンセンサス形成に貢献することである。国際憲章によって立つ理念・原則と日本国憲法は基本的に一致しているので、日本としては基本原則を徹底して守ることで、自らの行動をこれらの原則に基づいて決定しなければならない。

第二に国連が効果的な制裁を実行できるようになることである。国連の制裁措置は非軍事的なものや軍事的なものがある。まず、国連の正規の活動でもなんでもない、いわゆる多国籍軍などの活動に対する参加は絶対認めない。もう一つの金銭的貢献は、これを日本に求める場合、原則として、積極的に対応する。

第三として、大国の行動に対する制約を強めるうえでの貢献であるが、日本は、ほとんど無力の存在である。

次に国連が抱える問題点を是正するうえで、日本としてはいかなる役割を担うことができるかという問題は、アメリカの政策を円滑ならしめるための国連利用に手を貸すのではなく、まったく逆にアメリカをけじめとした大国間の協調体制が危険な方向に進まないよう、チェックすることであると思う。

そういうことで、我々は、今は自衛隊に新たな任務を与える時期ではなく、その縮小と平和憲法に則した安全保障の展望について考えるべきである。



「北方領土一軌跡と返還への助走」

(木村 汎 著)

E 3 四ノ宮 大輔

北方領土は、言わずと知れた南千島列島の4島である。現在において、日露間の問題で最も大きい割合を占めている。そこで、日露(旧ソ連)間で、どういう問題になっているかを知るためにこの本を読んでみた。

まず、第一に挙げられるのが、固有の領土という概念を持つ日本とそうではなくて国境は伸縮自在であるという考えを持つソ連との領土観の違いである。これは、日本が四方を海に囲まれており、他国から侵略を受け国境が変化するということがなかったのに対し、ソ連では陸続きで常に領土が侵略され国境が変化するというヨーロッパの国であるからである。

領土紛争の次の原因として考えられるのが領土返還により、他国から同じように返還要求が起こるかもしれないという事だろう。ソ連は大战中に11ヶ国(日本を含む)から67万平方キロメートル余りの領土をふやした。だから、日本の領土返還に応じることは、先例をつくる事になり、その他の国の領土返還を考えていかなければならないから日本の領土返還要求には応じられないという考えがあるのだろう。

もう一つ、北方領土の持つ軍事戦略的な価値の大きさだろう。この地域はオホーツク海を開かれた海にするか、閉ざされた海にするかの要である。つまりソ連にとって北方領土があるとならないでは大きく違ってくるようである。

では、なぜこのような原因ができてしまったのだろうか。これは、戦後の両国の生き方の違いがあるのだと思う。日本が武力ではなく経済に重点をおいたのに対し、ソ連では軍事力を強化し、さらに武力にたよるようにした。もし、ソ連も、日本のような戦後を送っていれば、二番目と三番目の原因が少しやわらぐように考えられる。

さて、日ソ間での領土問題では以上のような事があったが、戦後ソ連と日本の間にはどのような事があったのだろうか。まず、戦争直後は、無関係と言えるような状態であった。冷戦が少しずつ緩和していくなかで、日ソ間で、北方領土が問題としてでできた。ここには、日ソの話し合いの中で様々な戦術が見られていたがこ

こでは省略する。

大体、以上のような事が書かれていた。僕が思うに、現在のロシアの国内状況から考えれば、返還要求を進めていき、ロシアに対しての援助をしていき、他の資本主義の国の協力もあれば返してくれるように思うが、あまり他の国がいいすぎると無理かもしれない。結局、時勢がよく、政治的にすぐれている行動をとればよいのだろうけど。今、思うに日本の政治家にしろ、ロシアの政治家にしろ、自分のことだけを考える人間が多いと思う。もっと様々な問題の解決の為にがんばってほしい。

「だれのための米自由化か」

(田代 洋一 著)

E 3 森田 健二

米問題についての最初の問題は、なぜアメリカはあんなにしつこく日本に米輸入自由化を要求するのかという点である。しかし、日本が完全自由化した場合、輸出がのびるのはタイ、中国であって、アメリカの輸出は減るとされている。するとそこには単なる商売の話を越えた、もっと大きな背景が隠されていると見るべきである。

以前アメリカは、レーガンの「強いアメリカ」政策で、財政赤字と貿易赤字を累積するに至り、1985年には世界最大の純債務国に転落した。アメリカとしては、なんとかして貿易赤字を減らしたい。と言っても国際競争力があるのは農業やサービス業ぐらいのものである。そのドル箱のはずの農産物輸出が、実は不振なのである。

その原因は、他国が輸出補助金や輸入制限で自由貿易を阻害し、あるいは国内産業を保護しているからである。各国が農業保護を取り去れば、アメリカ農業が本来もっている競争力が発揮されたはずだ。これがアメリカの言い分である。

そこで、ガット新ラウンドにおいて、アメリカの最大の狙いは、世界穀物戦争の最大の相手たるECの輸出の武器になっている輸出補助金をやめさせ、落ちこんだアメリカの景気を回復・拡大することにある。そこで、まず日本の農業保護をやめさせることによって、ECの輸出補助金などの農業保護もやめさせようというのである。

アメリカには、もう一つの意図がある。前述のように財政・貿易赤字のアメリカが、再び経済力を回復するにはもはや自力では不可能である。残された唯一の道は、今までアメリカが負ってきた対外的な負担を、経済力を高めてきた日本に肩代わりさせ、さらには日本の経済力をつっかえ棒にして自らも立ち直るしかない。そのためにアメリカの戦略としては、日米経済の一体化をはかることである。日米経済の一体化をはかるうえで構造的障害があってはならない。そこで日米経済の体質の違いを全て切除してしまうというのが、実は89年秋からの「日米構造協議」のメインテーマである。

要するに日米経緯の一体化を追求する上で、最も異質なものの、最大の構造障害が日本の米の輸入禁止措置である。そういう異質物を取り去ろうとするアメリカ経済の再建戦略のなかに、日本の米自由化問題は位置づけられているといえよう。

このようにみえてみると、米自由化への道と日本がアメリカの肩代わりをして、軍事大国、戦略援助大国になっていき、イラク問題などで自衛隊の海外派兵までつき進んでいく道とは、同じ一本の道といえる。

この本を読んで思った事は、アメリカの主張も分かるような気もするけど、もう少しお互い相手の国の事を考えなくてはいけないと思う。日本も日本で、アメリカに車をじゃんじゃん輸出してるくせに、アメリカが「米を買って下さい」ときても、素直に「いいよ」といえないでいる。日本は戦後アメリカの世話になったのだから、米ぐらい輸入してもいいのでは？しかしそうになったら実際困るのは日本で米を作っている人々だろう。もうこうなったら利害関係がややこしく絡んで、「一歩たりとも動けない状態」になってしまう。

でも、このまま放っておくと、日米貿易摩擦の拡大に貢献してるようなもんだから、何かしなくてはならない。

随想・読書雑感

「温暖化への世界戦略」

(地球産業文化研究所編訳)

C4 青木 美咲

今、世の中はエコロジーブームの真ただ中である。『地球に優しい』とか『温室効果』『オゾン層保護』といった言葉が、普通に会話の中に登場する。けれど実際のところ、オゾンホールから紫外線が降りそそいでいるとか、地球の気温が上昇し海面が上昇するといわれても、とりあえず自分の身に影響がなければあまり関心を抱かない。どこか別の星の話のようにすら感じることもある。少なくとも私自身は、そうであった。

しかし、この本を読んでみて、それがいかに甘い考えであったかということを痛感した。

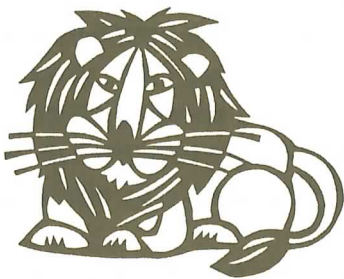
例えば、昨年、前期末試験を延期させ秋休みを削った台風19号や、今年の8月の台風、アメリカを襲ったハリケーン。これらの勢力の大きな台風の多発が、温暖化が原因かどうかは不明である。ただし、海の温かい水の層が厚いと、台風の力が増すことは事実で、温暖化の影響を受けていると考えられているという。

また、現在のままのCO₂の排出が続けば、今後100年間で気温はさらに3度上昇し、海水面は最大1m上昇するという。別に騒ぐほどの数値でもないように見えるが、3度と1mの上昇が私たちに及ぼす影響は大きい。そもそも文明発祥以来、平均温度が1度以上変化したことがない。その上、上昇の速度は氷河期から今の気候に移った時より10倍から100倍も速い。つまり、人類が今までに全く経験のない変化を迎えることになる。海面の上昇も、国の対応能力や低地の人口によって異なるが、中国でも1億人の難民が出、サンゴ礁の島国は国の存続すら危ういという。指をくわえて見ていられる状態ではない。

以上のようなことから、温暖化の問題が遠い未来の話ではないことが痛感できたわけだが、もう1つ、この本から分かったことがある。それは、著者もはっきりとは言っていないが、間に合わないのではないのか。ということだ。手遅れと言っても良いかもしれない。地球が温暖化している原因や、これから先、現状で進行するとどうなるかといったことは分かっているのだが、それに対応する良い方法がないというのだ。むろん、色々な対策や研究が各国で進められているが、

CO₂削減を例にとってみても、各国が直ちに2%ずつ削減しても、安全とされる濃度にするには50年かかる。しかし、現在進行形で増えるCO₂を制限することで難しいのに削減となるとさらに困難を極める。先行き不安どころかお先真っ暗といった状況である。世界中の人々が、同じ問題の解決法を求めているのを見つからないのだからお手上げ状態といえる…。

けれど、自分にできる範囲で1人ひとりが努力する必要があると思う。もう手遅れで、地球を元に戻すことは不可能かもしれないけれど、せめて現状維持くらいで何とか留めておくことはできるかもしれない。自分が生き延びるがためでもあるのだから、口先だけの「エコロジーにならないようにしたいと思う」。



○「図書室では静粛に」

○「読んだ本はもとの位置へ」



○「貸出期間を守ろう」

○「図書室では飲食はやめよう」

教育テレビスペシャル

「都市と住まいの建築家の挑戦」をみて

A4 井口 康雄

このビデオを視聴して特に感じたことが二つあります。その一つは建築家クリストファー・アレグザンダーのクライアントに対する接し方です。彼は今回の街作りにおいて、そのプロセスを明らかにし住民の参加を積極的に求めていました。例えば、この千種台団地が生まれ変わったときにも、残しておきたい物を住民に聞いたり、団地内の公園の個数や道路幅、樹木の種類とその本数、建物も高さなどを徹底的に調べていました。そしてそれを基にした手紙を住民がわと幾度となくやりとりし、彼らと徹底的に話し合っていました。確かに雑誌や評論家などから高く評価された建築であっても、それを使っている人が実際生活しにくかったり、利用しにくかったりするとその建築は全く無意味だと思います。建築家は自分の理念を追求することとても大事ですが、それを追い求める余り非現実的な作品が出来上がってしまうこともあります。建築は生活を規定するものですから、建築家もそこで生活する人々も、共に満足のいく物でなければならぬと思います。僕自身は将来クライアントに今度建物を建てるときも彼にお願いしようと言われるような、作家になりたいと思います。

二つめの点としては、住民が必死になって千種台を良くしようと頑張っていたことです。この近所付き合いが乏しい日本で、団地の人々が一致団結して市が提案した建て替え案に対抗してアメリカからわざわざ建築家を招いてまで、ましてや変更がかなり難しいということを知りながら取り組んでいた姿には感銘を受けました。たとえ願がかなわなくても、自分たちの意思をはっきりと行政に伝えることは、大切なことだと思います。これは次の建て替え案を市が考えるときなどにきっと反映されて、今後の行政の建築に対するまた都市計画に対する取り組み方も、より住民、市民の意見を取り入れた身近な物に変わってくると思います。

新任教職員随想

南極観測について

会計課長

嶋田 康夫



去る6月19日、本校の体育館において、特別講演が行われた。国立極地研究所の矢内助教授から“南極観測と隕石の発見”という演題で、第29次越冬副隊長として「あすか観測拠点」に越冬中における、「セールロンダーネ山地地域における隕石探査とその様子」についての講演でした。その際、昭和基地の話は何かの機会に会計課長から聞いてくださいとのコメントがありました。そこでこの機会を利用して南極観測について、紙面の許す範囲でここに紹介したいと思います。

南極地域観測事業は、昭和32年7月から1年半を期限として、世界主要国64か国が参加し、地球を取り巻く環境の謎を解こうという、史上空前の科学的大事業であった国際地球観測年(I.G.Y)の一環として、我が国は、昭和30年11月の閣議決定によって、米・英・ソ等11か国とともに南極観測に参加し、翌31年11月8日に第1次観測隊が南極に向け出港した。

昭和34年には、南極地域の平和的利用、科学調査の自由と国際協力、領土権凍結の3原則を掲げた南極条約が、我が国を含む12か国で署名され、昭和36年6月に発効した。

昭和36年「宗谷」の老朽化等により、第6次隊を最後に観測は一時中断されたが、その後、南極地域観測の再開が強く要望され、恒久観測として実施されることとなった。

昭和40年「ふじ」が建造されるとともに大型ヘリコプター2機が導入されて、「昭和基地」は飛躍的に拡充され、現在では、昭和58年の第25次隊以降、観測船は「ふじ」から「しらせ」となり、基準排水量が5,250トンから11,600トン、物資輸送が500トンから1,000トン

となり、世界でも第一級の砕氷船となっている。

平成4年、「昭和基地」では、第33次観測隊(越冬隊37名)により、定常観測として、極光・夜光、地磁気、気象、電離層、地震、潮汐等が、研究観測として「生物圏観測計画(5年計画の1年次)」「気水圏環境変動観測計画」(氷床ドーム深層掘削計画:5年計画の1年次)」「ポーラーパトロール気球による超高層大気観測(3年計画の2年次)」等を重点項目として越冬観測を実施している。

南極観測は、各省庁の協力により、行われており、この観測事業を統合推進するために、閣議決定により「南極地域観測統合推進本部(本部長・文部大臣)」が文部省に置かれている。

南極観測は、国立極地研究所が、研究観測、基地の設営等を担当するほか、気象庁、海上保安庁、建設省国土地理院、郵政省通信総合研究所が気象観測、海洋観測等の定常観測を分担しており、物資の輸送は防衛庁が担当しています。特に国立極地研究所は、南極観測の中核機関として観測計画、設営計画、隊員候補者の人選及び、訓練、観測に必要な物資の調達等を担当しています。

南極基地で観測に当たる観測隊員は、定常観測機関の職員、大学等の研究者、設営業務を担当する民間人技術者(機械、通信、医療、調理、航空等)で編成されています。民間出身者は、南極観測に従事する間、極地研究所の職員として採用され、隊員すべてが国家公務員の身分として事業に参加しています。

昭和基地は、南緯69度、東経39度35分に位置し、リュッオ・ホルム湾東岸の大陸氷縁から4キロメートルほど離れた、東オングル島上にあります。東京から直線で14,000キロ離れております。基地には30人~40人が1年間の越冬生活を送るためのすべての物資と施設が整っています。

「昭和基地」には、世界でも優れた超高層観測施設やオーロラを観測するロケット施設、最近では第30次隊により、直径11mのパラボラアンテナを世界で初めて南極大陸に設置し、科学衛星からのデータを受信しているが、このほか、気象棟には自動気象観測装置を地球物理や各種の観測を自動化して、データを収集す

るコンピュータも設置されています。また、地学棟や生物等の研究を行う環境科学棟など広範囲の研究のための施設を完備し、観測用小型航空機を常駐させるなど近代的研究施設の機能を十分に発揮しています。

最近、地球環境がクローズアップされていますが、なかでも「地球の温暖化」「大気環境の汚染」等が、地球全体の問題となってきました。こうした環境問題にとって、南極地域は敏感に変化が生じる場所であることから、南極における研究観測が、今後ますます注目されるものと思われる。

無 題



用度係長
嶋市 敬

「シマイチサ〜ン」「シマイチサ〜ン」と声が掛かる。グアム島にあるホテルサンルートグアムのロビーのことである。

浅黒い肌をし、原色の服を身に付けた一目で現地の人とわかる青年が、辺りを見回している。席を立ち、今日の目的であるディナー付クルーズ予約申込書を青年に提示すると、青年は我家5人の名前と本人の確認作業に入る。人の良さそうな青年が笑顔で話し掛けてくれるのだが、語学力の無さがつい頭をもたげ緊張してしまう。家内は、私より語学力に自信があるのか、社交性に富んでいるのか、^{はたまた}将又ず太いせいか平然としている。小学校6年生の長男は、俯き加減に小声で返事をしている。小学校4年生の長女は、日頃の快活さと言うべきが無鉄砲さを発揮し、元気よく返事をするものと思いきや、やはり小声である。最後に小学校1年生の次男はと見ると、首を縦に振っている。

青年が「サア、イキマショウ」と言って歩き始める。すると子供達は、先日のオブショナルツア^アで覚えた「イエイ、イエイ、レッツ・ゴー」の掛け声と共に青年の後を追う。迎えの車は、今迄のオブショナルツアと違う。大型バスやマイクロバスであったのが、

今回は何んとアメ車の乗用車である。

レディーファーストの国の青年らしく後部座席のドアを開け、家内や子供達を手招きしている。ホテルを後にすると、私達5人と青年の戦い（会話）が再び始まる。ただし、青年は何も思っていないだろうが……。ホテルを出発した頃は、空いていた道路も5時過ぎになると帰宅を急ぐ車のせいか混んでくる。更に、雨期のせいが一時的に雨も降る。この頃になると流石に片言の英語と日本語を交えた会話も一段落となる。それを見越したかのようにアブラ港に到着した。

そこで待っていたのは、私なら彼の一撃で一塊もなく粉々にされてしまいそうな逞しい体格の持主で、差詰め『武蔵丸』を小振にしたような上半身裸の40歳前後の男性と、ポリネシアンショーでよく見掛ける1枚布を身にまとった20歳前後の若い女性の笑顔だった。子供達は、女性達と握手を交わしている。日本語を流暢に話す小型武蔵丸さんに促され、エンジン音の聞こえるクルーザーに向かう。操舵室からキャプテンらしい30歳半ばの白人男性^{なか}が手を振って出迎えてくれる。我家の5人が最後の乗船者なのかと思いつつ乗船してみると、16名前後乗れると思われる船内に我家の5人だけである。今日このサンセットクルーズを選んだのは、我家の5人だけのようだ。正にチャータである。

出航すると、豪華とは言えないがディナーの開始である。シーフードグラタン、サラダ、炒物等を勧めに従い腹の中に押し込める。勿論、私はビールと共に。ディナーが終わるとデッキに案内され、船首に腰掛ける。小型武蔵丸さんは、ギターを片手に容姿とは似ても似つかない甘い声でポップス、ハワイアン果ては、最近本人と一緒にこのクルーザーで歌ったと言う吉幾三の「雪国」まで披露する。女性2人も歌に併せて踊りを披露してくれる。豪華な新造船のクルーザーは、生演奏にうっとり耳を傾けた我家の5人を乗せ、真赤な太陽が沈みつつある夕日の海を水平線に向かって波柱を上げ真直に進んで行く。

昨日のことのよう思い出されてくるが、既に1年余りの月日が経過してしまった。子供達にとっては、初めての海外旅行であったが、年令、性格も違い思い出や感じ方にかなり違いがあったのではないだろうか。自分自身を振り返ってみても旅行した時期、方法、同伴者等により大きな差がある。シンガポールの美しい町並とベニヤ板で仕切れられ隣の音が聞こえる安

宿。台湾花蓮市で一人旅の私を市内観光させてくれた上に、自宅に泊めてくれた青年のことなど思い出されてくる。これからは、もっと世界との距離が縮まってくることだろう。世界を体験する意味でも、よい思い出作りのためにもチャンスさえあれば家族と共に又、海外旅行してみたいなあ。

選 択



用度係

出木舎 雅文

憂鬱な週末である。

それが何ヶ月前だったか、もう覚えていない。原稿用紙2枚を渡され、新任者随想を書くように言われたその日から今日まで、マス目は一つも埋まらなかった。参考に渡された図書だよりに、目を通してみる。益々憂鬱になった。行が増えないかわりに、ビールの空缶ばかり増えていく。既に2本転がっている。この調子でいくと、書き終える頃には、一体何本転がっていることやら。

何を書けばいいのかよく分からないが、とにかく、何か書かなければ。締切は、目前に迫っている。

早いもので、高専に転任してから5ヶ月が過ぎようとしている。公務員になって、2度目の異動である。

余談ではあるが、自分が広島大学に採用されたのが昭和62年12月1日、歳は喰っているが、公務員としての経験は、まだ5年に満たないのである。

大学を卒業し、呉市に本社を置く建設会社に就職したのが、昭和59年4月、半月程、研修らしきものを受け、愛媛県松山市の営業所へ配属された。松山での生活は、それなりに楽しいものであったが、仕事については……。

11ヶ月で退職した。23歳の時、最初のTurning Pointであり、選択の時であった。

それから2年数ヶ月後、何とか、国家公務員採用試験に合格し、広島大学文学部へ採用された。ここまで

辿着くのに、大学を卒業して、3年7ヶ月が過ぎ、既に26歳になっていた。

そして平成4年4月、今度は学外への異動、2度目の選択の時を迎えた。

会社を辞め、公務員となるまでの2年数ヶ月は、辛く苦しい時期であったが、23歳の時の選択は、決して間違いだとは思わないし、その期間は、自分にとってマイナスだとも思っていない。

人は生きていく上で、数々のTurning Point を迎え、選択を強いられることになる。

その選択が、どんな結果をもたらすか、正しいのか間違いなのかは、他人には分からないし、もしかすると、本人にも分からず、ただ、間違いでないことを願うだけかもしれない。

訳の分からないことを書いていたら、どうやらマス目は埋まった様である。幸いにもビールは2本のままであったが、2杯目の水割りが空になった。

一眠りしたら、久しぶりに、残り少ない夏を感じに出かけることにしよう。新しいTurning Point の訪れを期待しながら……。

平成4年8月某日・深夜

「ラスト・ボーイスカウト」を観ながら

パブロフの条件反射



図書係長

畑野 繁人

私は、今年の4月に広島大学の図書館本館から本校の図書館に着任してきました。

桜の花びらが駅舎やレンガ色の舗道を飾るころ、列車から下りる本校の新生は中学を卒業したばかりで初々しい。今まで見慣れていた大学生とのゼネレーションの違いに、映画の「バック・トゥ・ザ・フューチャー」のごとく異次元の世界に飛び込んだような戸惑いを強く感じたのを覚えている。その戸惑いは、私自身の転

勤に対する思いと重なっていつまでも新鮮なギャップとして脳裏に刻まれることであろう。

昨冬の東京での研修期間中に、部長から転勤の打診がありました。当時、図書館の電算システム（日立の図書館パッケージソフトBIBLION）の導入と開発にかかわっていたものですから、その完成と運用を見届けたいという思いがあり一度断ったのですが、部長の性格からして拒否しても辞令は下りると思い諦めた。また、心の片隅に呉高専はテニスのレベルが高いので、趣味のテニスが思う存分できるのではなかろうかという雑念（本音）があったことも災いしてしまった。

ところで、呉高専の図書館関係者は、私が最初に勤務した広大施設部の後輩（年齢は先輩）に本校の建築学科の卒業生の中内さんがいました。名古屋の大学で福祉の勉強をした後広大到舞い戻り、今その彼女は広大の図書館中央館（西条）で頑張っています。そして、呉高専の内情を伺った医学分館や本館と一緒に仕事をした土佐さんは、今図書館の移転の仕事でテンテコ舞いされながら頑張っておられます。前任者の西本さんは、有名な丹下健三の設計した新しい中央館で頑張っておられます。

余談ですが、ぜひ建築学科の学生は、有名な建築家の建築物を見学して機能とデザインの関わり等の建築論、批評をしていただきたい。はるか昔に建築をかじった私からのエールです。

話を趣味のテニスと呉高専の関係に戻すと、元広島修道大学の岡本さん（現プロコーチ）の尽力によって広島県大学教職員テニス連盟が14年前に発足しました。その後連盟も発展し、現在12大学・高専が加盟するまでになりました。親善ゲームやリーグ戦を開催し盛況です。そして、広大と呉高専は優勝を争う宿命のライバルです。その関係から、テニスのゲームを通じて出会った先生や職員がたくさんおられます。私は酒がダメなものですから、外国出張中のK先生を筆頭とした呉高専の酒飲みテニス（もっぱらの噂）になじめそうもありませんが、今年のリーグ戦は私の加入があったおかげで優勝できました。これを、世間一般では「自画自賛」という。広辞苑第4版「自分の描いた画（絵）に自分で賛（ほめる）をすること。同義語＝手前味噌」。

今はさぼり癖がついてしまって、おかげで脂肪17%がお腹にたまり、ますますテニスコートから遠ざかっています。ギャルにでも誘っていただければホイホイ

ついて行きます。これを教育心理学では、パブロフの条件反射的「学習の動機づけ」といい、学習の重要な要素となります。別の言い方をすれば「動機の不純」といいます。そして一定の条件のもとで練習し、その学習過程の進行を「学習曲線（練習時間数を x 、学習の速度を y とすると関数 $y=F(x)$ で表される）」といい、若いギャルからの誘いがなくなって、動機づけ刺激の急速な低減により学習曲線が「高原」の状態になっております。これを中だるみ現象という。この中だるみ現象の解消と17%の脂肪を減らすために週1回のテニスクールに通っています。このように、私にとってテニスは生涯学習のメインテーマですのでこれからもよろしくお願いします。

話をがらり変えて、赴任に際し広大の部長から言われたことを紹介させていただくと、「2000年には就学者数が50万人減少する。この数は、現在の全国・公・私立大学の全入学定員に相当する。そこで、職員自身の生き残りもさることながら大学等の生き残りのための施策を真剣に考えなければならない。現に、この厳しい状況への対応として短期大学の4年生大学化や特色づくりに世の中が動いている。当然留学生の受入れが増加するので英語を勉強しろ。そして情報化社会を的確に把握した良い仕事をするには、立案を実施するための予算をいかにして獲得するかにかかっている。その勉強をしっかりとしろ。」と。重責に押しつぶれないよう頑張らねば…。

今、全国の大学では図書館と総合情報処理センターを核とした学術情報システム体制を形成し、学術情報（文字、電子メディア等）のデータベース化を推進している。そして、全国の世界のネットワークのもとで、学内的にはLANを敷設し情報資源の共有と流通を積極的に推進している。その中心に文部省学術情報センターがあり、図書館は、その学術情報システムの中で図書、雑誌等の資料情報データベースの形成の役割を担っている。平成4年7月現在約200機関が接続し、図書所蔵情報670万件、雑誌所蔵情報270万件が登録されている。今も接続機関や登録件数が増加している。そして、オンラインで資料の複写申込みや現物の貸借の業務処理ができ、大学によってはG4ファックスによって複写物が到着する仕組みになっている。

高専では、既に新居浜と石川が接続している。広島県の大学では、広島大学、近畿大学、広島工業大学、

広島修道大学が接続している。見学する機会がありましたらぜひ図書館を訪ねてみて下さい。もちろんこれに限らず図書館、ビデオライブラリー、博物館などの文化施設などとの文献調査・入手の情報相互協力関係が図書館業務として確立されていることは申すまでもないことです。文献情報の入手に困ったら即図書館へご連絡を。

学術情報センターの推進する学術システムネットワークは、北は北海道、南は沖縄、海外は有名な米国議会図書館(LC)、米国国立科学技術財団(NSF)、英国図書館(BL)とオンライン接続され、それぞれの所蔵する図書等の情報が探せます。本校においてもローカルの対応システムを含め計画を委員会に諮っているが、その実現までの紆余曲折が楽しみである。

ところで、図書館の役割は教育・学習と研究の実質的支援機関として機能を担うことは周知のことですが、図書館の機能として教育・学習図書館機能と研究図書館機能が必要であり、その両面についてバランス良く充実させてゆかなければならない。このことについての問題は山積しており、早急に必要なもの、やらねばならないこととして、

- ・文書処理ワープロの導入。
 - ・通信機能、表計算等のソフトや、CD-ROM資料、フロッピーディスク資料の扱えるパソコンの導入。
 - ・学生からの要望が強い、ビデオ資料を扱うためのビデオ室の確保と対応機器等々の導入。
 - ・同じく学生からの要望がある文献複写業務の運用。
 - ・リファレンス資料の充実。
 - ・学術情報についての潜在需要の開発。
 - ・研究者からのニーズによる文献情報検索業務の運用
 - ・学生の図書館利用教育の実施…
 - ・10年前に比べ57%に激減した学生用図書費の増額。
- 紙面の都合により、止むなく切上げますが、呉高専の将来のために、微力ながら頑張りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。



座 談 会

「みんなに役立つ図書館に」

と き：平成4年7月15日(水)16:00～17:00

ところ：第2ゼミナール室(図書館棟)

出席者(敬称略)：

(M3)武富太郎、(C3)小澤満津雄、(A3)中野美良子

(M5)大本章弘、(E5)土井 静、(C5)栗津裕之

(A5)方 仁海 (ファン・レンハイ)

図書館長；今井、図書係長；畑野、司会；池上

司会：皆さん、本日はお忙しいところ、この座談会にご出席いただき有り難うございました。

はじめに、この座談会開催の趣旨について、図書館長の今井先生から一言お願いいたします。

館長：呉高専では、一人でも多く図書館を利用できるように、元年4月から夜間開館を、そして今春から学校が週五日制になりましたので、土曜日も10:00～15:30まで開いています。しかし、皆さんの利用状況は次のデータ(注1)が示すように、試験の直前を除けば今一つといったところですよ。そこで、今日は「皆さんにとってもっと役立つ図書館にするにはどんな点を拡充、改善したらよいか」皆さんの率直なご意見をお聞かせいただきたいと思いますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

—— 図書館の蔵書について ——

司会：それでは、皆さんが当図書館でよく読んでおられる本やぜひ読みたいと思っている本などを紹介いただきながら、図書館の蔵書についてご意見をお聞かせ下さい。



武富：小説、その中でも歴史物をよく読みますが、どうも最近のものが少ないのもっと購入していただきたいと思います。

小澤：野球が好きだから、スポーツの専門誌などを楽しく読んでいます。

中野：以前は雑誌もよく見ていましたが、今は昼休みが短いのでそれでもできず、もっぱら専門書の利用となっています。

方：小説などは借りて寮でゆっくり読みますが、レポート作成では専門書を探しだし、その場で書き終えるよ

うにしています。



栗津：専門書の利用は、レポート作りの場合が圧倒的に多いように思います。ただ、そんな時は利用希望が集中するので、利用頻度の高いものは、できれば複数冊置いていただきたい。

土井：実験のレポートまとめには、専門書をよく見ます。また、小説もよく読む方だと思いますが、シリーズもの（文庫）で有名作家のものが欠けていたりするとガッカリします。



大本：車が好きなので、その関係の月刊誌をよく読んでいますが、レポートでは専門書をよく活用します。

—— 購入希望図書の購入について ——

司会：皆さんのお話では専門書の利用が大きなウェイトを占めているようですが、では、皆さんが必要とする専門書は大体ありますか？

大本：機械関係では、最新のものがちょっと少ないように思います。



中野：建築の専門書の場合、古代と現代に関する参考書（図書）はあるが、その中間のものがなくて入れて欲しいと思います。

土井：電気の卒研でぜひ参考にしたい専門書が図書館になかったので「購入希望図書」の申請手続きをしましたが、数ヶ月たっても入らないので、今回はやむなく自費で購入しましたが、このようなケースについて今後何とかならないでしょうか。

司会：土井さんがお困りだった状況はよくわかりますので、図書購入につき何らかの改善が必要とか思われますが、図書係長さん、現在の図書購入の仕組みについて、簡単に説明して下さいませんか。

係長：図書館で購入する学生用図書は、全教官による推薦図書と学生が出す購入希望図書の中から、図書購入についての会議（年2回）で内容と予算面から検討し購入が決定され、以後1～2ヶ月して書棚に並ぶ事になります。

司会：そうすると、皆さんが出す「購入希望図書」の早期購入を実現するためには、前もって、全予算の中でこれ用の枠取りをしておいて、出された購入希望図書の内容検討のみを2ヶ月ピッチ位でやって、早くそ

れらの購入可否の決定をする等の改善が必要ですね。

また、土井さんの言われた卒研等で早急に必要となった専門書の特別緊急購入手続きの検討も必要ではないでしょうか。館長さん、いかがですか？

館長：はい、わかりました。

—— 図書館の利用法と、それについての改善点 ——

司会：では、「皆さんの図書館の利用法と、それに関する改善点について」お話し下さい。

大本：以前はよく休憩を兼ねて新聞、雑誌を読みに来ていましたが、今はレポートを書くための専門書の借出しのみといった具合になっています。

土井：図書館で、しばしば専門書を同時2～3冊、机上に並べてレポートをよく書きます。そして、その都度小説などを借りて帰ります。

栗津：専門書の借出しが主ですが、試験期間中は時々図書館で勉強もします。



方：読みたい本は借出して、寮で静かに読みます。

司会：方さん、図書館で読まないのはなぜですか？

方：図書館では、時々、数人の話し声がして騒がしく落ち着かないことがあるからです。

司会：それはいけませんね。図書館では、静かに読書をするというエチケットを、全員再認識してもらわなくては。

中野：私の場合、図書館でよく勉強をします。



小澤：スポーツのクラブ活動を毎日遅くまでやっているの、時間がなくて、月刊誌もゆっくりとは読めません。そこで持出し禁止図書の「部分コピー」

を取れるようにしてもらえないでしょうか？

武富：大抵読みたい本は借りて帰って家で読みますが、それが持ち出し禁止になっている場合には、やむなく図書館で読みます。それと、専門書のコピーは図書館で取れるようにして欲しいです。

—— 複写機と検索用端末機設置の要望 ——

司会：複写機の図書館内の設置は、強い要望がありますので、係長さん検討していただけないか？

係長：複写機の図書館内の設置は、著作権法の観点から必要と思われるので早急に検討します。

司会：ほかに設備関係で何かご要望はありますか？



土井：現在、蔵書の検索は図書係の方
にお願いしてやっていただくのですが、
できれば学生自身が使える検索用端末
機を置いてもらいたいと思います。

司会：なるほど、それも図書館のサービスの一つとして
必要ですね。係長さん、これも複写機と同様、設置
の検討をお願いします。

——土曜日開館と、月～金曜日の夜間開館の時間——

司会：では、学校週5日制における図書館利用促進の
観点で実施している土曜日開館（10：00～15：30）、お
よび、月～金曜日の夜間開館（17：00～20：00）の時
間帯は、皆さんにとって本当に都合が良いでしょうか。
皆さんの気持ちを遠慮なくお聞かせ下さい。

大本：月～金曜日の夜間開館が20：00までとなってい
ることは、調べものをその日のうちに済ますことがで
きて大変助かるので現状のまがよろしい。

土井、中野：月～金曜日の夜間開館時間は現状で良い
と思いますが、土曜日の現在の開館時刻の10時は遠距
離通学生にはきついのので、できれば開館を昼から、例
えば 12：00～17：30にしていきたいと思います。

栗津、方：私達は、両方とも現状で良いです。

小澤：僕達、スポーツ部員は殆ど毎日遅くまで、時に
は5時過ぎまでも練習するので、土曜日にもなるべく遅
くまで開館しておいていただきたいです。

武富：私も通学生なので、土曜日の開館は1時とかと
遅くても構わないから、閉館を6時とかして、なるべ
く遅くまで利用できるようにしてもらいたいです。

司会：皆さんのご意見を総括すれば、月～金曜日の夜
間開館時間は現在のままでよいが、土曜日の開館時間
は現在の10：00～15：00でよいと言う意見と、朝ゆっ
くりと出て来て午後遅くまで利用できるように、例え
ば12：00～17：30として欲しいと言う、主として通学
生の意見との2通りがあるということがわかりました。
館長さん、この土曜日の開館時間についても後日再検
討をお願いいたします。そして、皆さん貴重なお提案
を本当に有難うございました。では、この辺で座談会
を終わらせていただきたいと思います。最後に館長
さん何かお願いします。

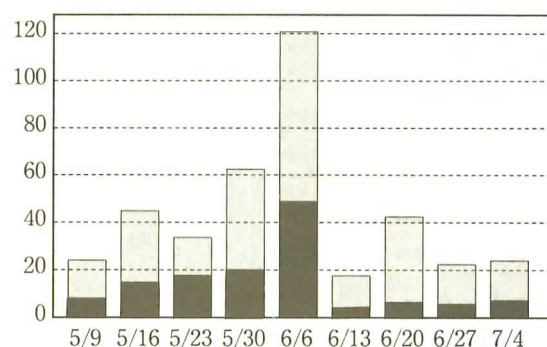
館長：皆さん本日はお忙しいところを、長時間にわたり
ご懇談いただき本当に有難うございました。これら

皆さんのご意見を参考にさせていただいて、今後、図
書館をさらにより良いものにしていく努力をしたいと
思います。

（注）本座談会では、ほかに図書館のレイアウトの
改善などについてもご意見ができましたが、紙面の都
合により割愛させていただきました。

（注1）

図書館土曜日開館の利用状況（午前：午後）



注：■は午前中 12時までの入館者

□は午後 12時からの入館者



私の推薦する本

日本河川水質年鑑編集委員会編

谷沢 明著

「川の音 — 女性による川のエッセイ集」

「瀬戸内の町並み — 港町形成の研究」

(山海堂)

(未来社)

土木工学科非常勤講師 釜口 忠士

建築学科 岡本 二郎

梅雨明けを来週なかばに控えているのに、この時期広島地方の降雨量は例年の1/3~1/4程度であり、一級河川・太田川水系では治水協議会が開催されて約10年振りの「取水制限」事態に追い込まれた。

平素は人々の心にやさしく静かに語りかけ、豊かな生活を支えてくれるふるさとの川の恵みも渇水となると更めて“限りある資源”ということを感じ知らされる。かつて勤務した職場で河川の調査や改修事業に30余年携わってきた私にとって、「川」は特に想い出が深い。

“現代（いま）を活躍する女性100人の川への想い”と副題されたこのエッセイ集はそれぞれの方々が川への想いを綴られたもので、その人の生いたちと共に大変興味深い。

瀬戸内には近世以後、帆船による海運の発達により、風待ち、潮待ちの中継ぎ港や小港が散在し、そこに港町が形成されていた。私は本校に赴任して間もない頃、安芸灘諸島を巡って島嶼部の集落調査を試みたことがある。それ以前には町並み調査で輦を取り上げたこともある。当時は、また「町並み保存」という言葉すら一般的ではなく、また輦の古い町並みについてもそれほど注目されてはいなかった。だが、明確な研究目的と有効な調査手段を持ち合わせていなかったこともあって、これらの集落調査も町並み調査も思ったほど成果をあげるにはいたらなかった。だからもし機会があれば改めて調査したいと考えてはいたし、その前に誰かが手掛けられるかも知れないと予想はしていた。

昨年、この本が出版されたのを知った時は、いささかショックだった。本を開いてまもなく、それは大きな間違いであることに気が付いた。著者自身の集落構造の空間的捉え方、宮本常一氏に師事した民族学的調査法、さらに文献研究に支えられた集落形成の歴史的研究など体系的にまとめられたものであった。

この本で取り上げられているのは、山口県上関、柳井、広島県御手洗、竹原、輦、岡山県下津井、牛窓の7集落で、これらはいずれも近世から近代にかけて発達した瀬戸内の港町あるいは商人町である。著者は昭和48年から63年の十数年間にわたって各集落を綿密に調査され、その結果をまとめられたもので、それは瀬戸内の町並み研究であると同時に、それぞれの港町の集落形成の記録でもある。



新 着 図 書 30 選

〈人文・社会〉

◆ダニエル・キイス著

「五番目のサリー」(ハヤカワ書房)

ニューヨークで働く平凡なウエイトレス、サリー・ポーターにはときどき記憶喪失に陥るという悩みがあった。実は、彼女の心の中にはあと4つの人格がすんでおり、自分に耐えられない事件にでくわすと、無意識のうちにそのどれかに切り替わっていたのだ。五重人格のサリーの心の軌跡を鮮やかに描く傑作。(西名記)

〈自 然〉

◆Sachs, Mendel著

「アインシュタイン vs ボーアーはてしない物理学の論争」(丸善)

量子論と相対論は、物質の性質を説明するものとして生まれた20世紀物理学の主要な成果である。本書の最大の焦点は、量子論と相対論の哲学的側面と、それをめぐる論争におかれている。本書は、量子論と相対論の根底にある概念がそもそもどんなものであるかを、一般の読者に説明しており、読者は根源物質の振舞いに関する“概念的認識”、つまり根源物質をいかに記述するかという議論の最前線を見ることができると思う。(深澤記)

〈機 械〉

◆日本潤滑学会編

「新材料のトライボロジー」(養賢堂)

摩擦を伴う機械要素に使用される摺動材として、先端技術開発のニーズ側とそれに新材料開発のシーズ側からの要請にマッチした内容 (灘野記)

◆中川元編

「新選材料試験方法」(養賢堂)

材料の機械的性質、引張り強さ、曲げ、衝撃等の試験法を主として各試験機や測定器の構造原理と取扱法について詳細に記述している。(灘野記)

◆横川和彦、横川宗彦共著

「CBNホイール研削加工技術」(工業調査会)

近来、焼入鋼材部品の研削加工に、CBNホイールを使用する比率が増大している。その理由はCBN砥粒が、ダイヤモンドにつぐ硬さをもち、高热伝導率であるため、鉄鋼材料の研削では、従来のWA砥石等に比し、その研削比が約400倍にも上るからである。

本書では、CBNによる新研削技術と、その高生産性につき、多くのデータを示して、詳しく解説がされているので、機械工作に興味を持つ学生に奨めます。

(池上記)

◆上野晴樹、石塚満共編

「知識の表現と利用」(オーム社)

知識の表現は、概念としての知識をコンピュータ処理向きにモデル化し、形式化するための方法論です。本書では、人間の記憶に基づく推論のモデル化を行う問題解決能力指向の知識表現や、1階述語論理を用いた理論指向の知識表現等、知識の表現と利用の代表的な考え方について整理されています。(岩本記)

◆渡辺純一著

「コンピュータここが知りたい」(近代科学社)

コンピュータを初めて学ぶ人のコンピュータ・アレルギーをなおすことを目的として書かれた本である。日頃コンピュータにいただいている疑問に答える53の質疑応答と、読物風に解説した205の用語集から成っており、順序だてて読まなくても、いつとなくコンピュータに親しみをもてる本である。(野原記)

◆大越孝敬編

「先端科学技術とは何か」(朝倉書店)

本書は、先端科学技術について、東大先端研の討論会の記録形式をとり、易しい文章で書かれている。内容も単に先端科学技術の紹介に留まらず、必要な技術(特に生体工学関連技術)と社会的背景の関係も論じられており、最新科学技術を知れる点で将来の技術者の基礎知識として読んでおいて損のない1冊であろう。(森川記)

〈電 気〉

◆小野塚 純夫著

「みんなの電気」 (コロナ社)

現代社会は技術の果実の便利さをあたりまえと思っていることがたくさんあります。中でも電気の利用は、もっとも身近であるため、疑問の余地がないほどです。しかし、よく考えてみるとわからないことがいっぱい。そこでこの本によりよい電気の使い方を考えてみましょう。身近な例から電気についての疑問に答えてくれます。(山崎記)

◆吉田貞史著

「薄膜」 (培風館)

薄膜の成長法や評価法、その応用について豊富な実例を示しながら説明している。半導体薄膜の電気・光物性・ヘテロ接合・超格子・原子層エピタキシーなど現在最も活発に研究開発がすすめられている領域です。この分野の過去20年の発展史を含め、入門者から専門家に至るまでを対象に書かれた本です。(山崎記)

◆オーム社編

「'92版 2種情報処理問題集」 (オーム社)

情報処理技術者として、その第一歩、まずは第2種情報処理技術者の試験に挑戦しようとしている諸君に！過去3年間にわたる問題をテーマ別に分け、類似問題に対処できるように詳しく説明している。これを学習し、その傾向と対策を活用すれば、合格確実。

(山崎記)

◆電気学会編

「大電流工学ハンドブック」 (電気学会)

大電流を扱う技術はいろいろな分野で応用されています。例えば、電力技術、核融合や加速器、レーザやビーム発生器などのパルスパワー技術、放電加工やレーザのような電磁力応用技術など、これらに共通する技術のもつ問題点は多くあり、互いの技術交流を図ることにより、一層の発展が期待される。この複合領域を通して技術について考えてみませんか。(山崎記)

◆櫛田孝司著

「光物性物理学」 (朝倉書店)

光と物質の相互作用や各種の物質の光学的性質を基礎づける光物性物理学を体系的にまとめた本。光は、最も身近かな存在ですが実は非常に特異な性質をもつ代表でもあります。そしてこれからの技術に不可欠のものでもあります。現在、光通信や光コンピュータなど、ますます応用分野が広がっています。(山崎記)

◆御子柴 宣夫著

「半導体の物理 改訂版」 (培風館)

半導体ということばはよく耳にし、是非勉強してみたいと思っている人は多いと思います。半導体の物性、半導体素子やその応用に興味にある方には必読の書です。基礎から最近の話題を含め各種の応用までいねいに書かれた定版教科書。(山崎記)



〈土 木〉

◆福永宗雄著

「応用測量の実際」(日本測量協会)

路線測量、河川測量および用地測量などの公共測量について、建設省測量作業規程に準拠して詳述されている。作業規程の理論的な裏付けなども多くの図表をとり入れわかりやすく説明している。最近測量機器の主流となりつつあるトータルステーションによる測量方法も多く記述されている。(阿部記)

◆木村敏雄著

「地質構造の科学」(朝倉書店)

大土木工事は地質学の知識なしには合理的な設計、安全な施工はできない。しかし土木と地質を結ぶ良書は少ない。この本は地球内部の構造、力と変形、断層と■曲について分かりやすく説明するとともに、地盤災害などとの関係も解説され、土木と地学を関連づける分かりやすい本である。(石井記)

◆島山直隆〔ほか〕著

「最新土質力学」(朝倉書店)

近年、土質工学の進歩は著しいものがあり、それに応じて平成2年度から土質試験の方法も相当変更されている。このため新しい研究結果や新しい試験方法も考慮に入れ、土質工学の基本的な事項が簡略に説明されている。(石井記)

〈建 築〉

◆石田頼房著

「未完の東京計画―実現しなかった計画の計画史」

(筑摩書房)

明治以後、近代日本の首都(顔)として、西洋近代都市を手本に幾度か都市改造の計画が提案され、それらのうち実現したものもあれば、そうでないものもある。この本では後者の実現されなかった都市改造計画の中から、日比谷官庁集中計画をはじめとする9例を取り上げ、それぞれの計画がなぜ実現しなかったかという点(背景と理由)について詳細に追い、当時の都市計画家たちの理想と挫折を再現しようと試みられたものです。(岡本記)

◆北原進著

「百万都市・江戸の生活」(角川書店)

現在、東京の人口は約1200万で、近世江戸の人口はその十分の一にも満たないが、それでも当時としては世界有数の大都市であった。日本経済史を専門とする著者が、これまでに雑誌などに掲載された江戸庶民の生活を描いた小文を一冊にまとめられたもので、気軽に楽しめる本です。(岡本記)

◆松葉一清著

「現代建築ポストモダン以後」(鹿島出版会)

本書は「近代主義を越えて」「ポスト・モダンの座標」に次ぐ、松葉一清のポスト・モダン論考の第3作目である。1990年代を迎え、今後、ポスト・モダンが如何なる方向へと進むかを、1980年代のポスト・モダンの流れから述べている。(篠部記)

◆真鍋恒博著

「設備から考える住宅の設計」(彰国社)

本書は住宅設計における設備計画や設備設計の要点を、多くのイラストを用いながら分かりやすく説明している。我々の日常生活では気付かなかった意外な事、様々な設備設計の工夫や知恵を教えてくれる。

(篠部記)

◆清水建設宇宙開発室著

「宇宙建築」

宇宙空間は既にSFの世界ではなく、探検や冒険の世界でもない、人間の新たな居住空間だ。月面基地や宇宙ステーションも専門家や研究者だけでなく普通の人の憩える場になるのだ。宇宙における建設事業を地球上での延長として等身大に捉えて概説した書。

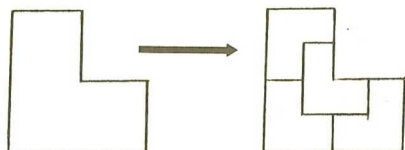
(西名記)



科学・数学パズル

1. 次の正方形について、例1、例2を参照して同型5等分しなさい。

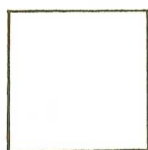
例1



例2

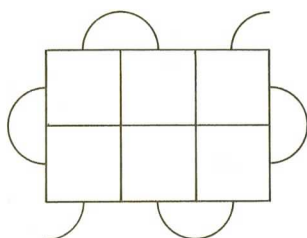


問題 正方形

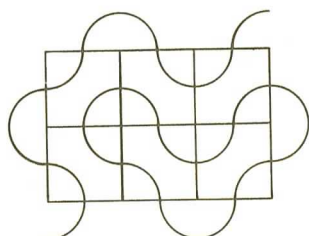


2. 次のような模様のタイルがある。

あと6枚並べると完成するが、タイル模様が例のようにすべて繋がる並べ方は何通りあるか。



例



解答が分かった方は、図書係までお知らせください。

お知らせ

学術情報センターのご紹介

現在、図書館のトータルシステムの実現に向けて、文部省学術情報センターを核とした学術情報ネットワークのもとで、図書館の業務電算化を図ることが全国的に進められております。そこで学術情報センターの概略を紹介させていただきます。

学術情報センターは、国立学校設置法による大学共同利用機関として昭和61年4月に設置され、全国的・総合的な学術情報システムの整備を推進する中核的な機関の役割を担い、いろいろな事業を推進しています。この学術情報システムは、学術情報センターと全国の国公私大学・高専等のコンピュータとをデータ通信網で結合し、図書館によるデータベースの形成及び、研究者が必要とする学術情報を迅速・的確に提供するための全国的、総合的な情報流通システムです。

研究者・図書館のための主要な機能・サービスとして次のものがあります。

- 1) 情報検索サービス (NACSIS-IR)
- 2) 目録・所在情報サービス=データベース形成(NACSIS-CAT)
- 3) 電子メール/電子掲示板サービス(NACSIS-MAIL/BBS, SINET)
- 4) ILL (Inter Library Loan) サービス
- 5) 研修、講習、シンポジウム

これからの図書館は、これらに対応できるローカルシステムの導入・構築が必要であると考えられます。



平成3年度図書統計

1. 利用

(1) 貸出人員・冊数

	人 員	冊 数
1 年	597	1,032
2 年	435	670
3 年	734	1,267
4 年	723	1,195
5 年	986	1,841
学生計	3,475	6,005
教職員	393	722
合 計	3,868	6,727

() 内は昨年度の合計を表す。
開室日数285日

(2) 入館者数

学 生	教 官	事 務	合 計
49,573	882	429	50,884

(45,866)

2. 蔵書

平成3.3.31現在

分類		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
区分		總 記	哲 学	歴 史	社 会 学	自 然 学	工 学	産 業	芸 術	語 学	文 学	合 計
図 書	和 書	5,125	2,563	5,485	5,438	9,017	21,638	510	2,330	2,778	5,948	60,832
	洋 書	504	467	133	222	1,295	3,078	10	41	1,363	1,294	8,407
学 術 雑 誌	合 計	5,629	3,030	5,618	5,660	10,312	24,716	520	2,371	4,141	7,242	69,239
	和 雑 誌	155	8	13	55	46	268	3	27	17	10	602
	洋 雑 誌	12	8	1	1	23	131	3	2	38	7	226
	合 計	167	16	14	56	69	399	6	29	55	17	828

注) 図書は冊数、学術雑誌は種類数を表す。

図書 (67,509)
雑誌 (817)

3. 文献複写依頼

	国 立 大 学	JICST	国 立 国 会 図 書	その他	合計
	電子式	マイクロフィルム	コンテツ	電子式	マイクロフィルム
件数	130		47	27	38
枚数	974		931	257	2,636

(168)

(6,142)

時間外閲覧（夜間開館）利用状況

() 内は1日平均

	開館	利用者数	貸出冊数
2 月	22日	1,971人 (89.6)	250冊 (11.4)
3 月	8日	325人 (40.6)	41冊 (5.1)
4 月	16日	354人 (22.1)	162冊 (10.1)
5 月	21日	895人 (42.6)	373冊 (17.8)
6 月	26日	1,267人 (48.7)	276冊 (10.6)
7 月	14日	472人 (33.7)	245冊 (17.5)
9 月	24日	891人 (37.1)	187冊 (7.7)

編集後記

本号は、学校週5日制実施後、始めてのものであることより、皆さんの土曜日の過ごし方としてクラブ活動で身体を鍛え、技を磨くのと同様に、図書館に来て大いに教養を高めて貰いたいと思い「土曜図書館の有効活用」を狙い編集しました。

その一環として開いた座談会「みんなに役立つ図書館に」では、参加の学生諸君から、本文に見られるように、貴重な意見を多く頂きました。

また、紙面の都合で割愛したものの中に、次のような面白い要望もありました。それは3年生のA君の発言で「試験前は、読書机がすぐ占領されてしまうので、図書室をもっと広げ、机数も増やすなど、図書館も学生の試験勉強に対して特別な計らいを出来ればお願いしたい。」と。

最後に、この「図書だより」の表紙写真を本号より、写真部にお願ひしたことをお伝えします。どうぞご期待下さい！

(図書館長補 池上廉平)